

第2回 沿岸部（海岸）における気候変動の影響及び適応の方向性検討委員会 議 事 概 要

日 時：平成26年11月28日（金）14：00～16：00

場 所：STANDARD 会議室 新橋フルハウス 6F 会議室

出席者：磯部委員長、大村委員、栗山委員、諏訪委員、鈴木委員他

1. 主な議事

○事務局より検討の背景、海岸分野における影響等について説明するとともに検討委員会メンバーによる意見交換を行った。

2. 主な意見等

【議事1 関係】

○予測が不確実であることを前提にしつつ、どのような影響が起こりえるのかを議論し、それに対する適応策を考えていく必要がある。

○海面上昇に関する気象庁の見解は説明のとおりであると思うが、港湾等で長年の潮位観測記録が蓄積されているデータの分析を行うことも考えられ、今後取り組んでいただきたい。

○現状認識を整理しておくことが重要ではないか。たとえば気象庁は海面上昇しているのか不明確としている。そういった現状をしっかりと踏まえて委員会の考え方を整理しておく必要がある。

○地球温暖化という現象から海面上昇が起こるのはメカニズムから考えて明確であり、IPCCにおいても程度はさておき海面上昇は起こると予測されている。よって、将来は海面上昇が起こるという前提で検討した方がよい。

【議事2 関係】

○高潮による浸水面積分布は精度を上げた研究結果があり、最新の論文を確認してほしい。なお、同結果についてはあくまでも傾向を示すものであり、結果の取り扱いには注意する必要がある。

○波高の変化の他に、周期の変化はあるのか。また、冬季の有意な変化はないとあるが、なぜそのような結果になるのか確認してほしい。また、海外で検討している事例はあるか。

○定量的な検討結果についても、なぜそういう結果になるのか説明できないものは、結果だけを鵜呑みにすべきではないと考える。定性的なメカニズムが理解できるものについて、数量的な不確実性を考慮した適応策を検討していけば良いと考える。

○我々が考えるべき上限を設定する必要があると思われる。上限と言いつつも、自然科学的な方向と社会的な情勢を組み合わせる社会として受け入れ可能なものを検討すればよいの

ではないのか。

○地球温暖化の影響については、不確かなものから確実に起こりそうなものまで様々であるが、社会的に影響の大きいものについては不確かであっても起こる可能性のあるものについて適応していく必要があると考えられるし、影響の小さいものについては最低限の対応にとどめるといった考えもある。重要度に応じて不確実なものの取り入れ方を変える必要があると整理した方がよい。

○資料-4の位置づけは、1994年に土木学会でとりまとめた地球温暖化の沿岸影響に記した影響伝播図のような網羅的な影響のうち主なものを取り上げたものであることを示した方がよい。

○二枚貝の減少が気候変動による影響なのか不明なのではないか。干潟については埋立などによって減少しているものもあり、気候変動の影響だけではないと思われる。誤解を与えないような論理立てとした方がよい。

【議事3関係】

○災害リスクの評価を考慮しないといけないのではないか。現状の施設の評価はどうか。例えば一部低いところや弱いところが有る場合はリスクがあると思われるため、今の施設の実力評価を行う必要がある。余裕高についても考慮した方がよいのではないか。また、砂浜が侵食することにより堤防への影響がある。高さの他に粘り強さや砂浜の侵食の影響等を含めるといった考えもあるのではないか。施設の高さ以外についても着目して適応策を整理してほしい。

○天端高さだけでなく施設の広さや幅などで対応することも考えられ、どこまで書くかはあるものの、なるべく多く記載してほしい。

○以前の答申時と基本的な考え方は同じであるが、日本の人口、経済、財政状況が変化し、厳しい中でどのように適応していくか、検討する必要がある。

○費用対効果について、重要度に応じてどのようなシナリオを考えているのか分かるようにしてほしい。

○本委員会では、現場において重要度に応じた適応策を総合的に勘案して選択できるよう、参考情報を含めたとりまとめとしてはどうか。

○安全の公平性はどこで担保するのか。現状の施設がどれだけ安全性を有しているか、いろいろな要素を勘案し、重要度を定める方がよいと思われる。

○気候変動がどの程度か予想し、海岸に対してどのような影響が起こるか、それに対してどのような適応策があるか整理する必要がある。例えば、砂浜の侵食に対しどのように対応

するのか、背後の護岸を強化する、最低限の砂浜幅を確保するなど、適応策を複数挙げて、最終的に優先度を整理して実際対応していくのか、本委員会ではそのような手順をまとめる必要がある。

○現状で老朽化対策が追いついていない状況の中、適応策を考える必要がある。老朽化対策と併せて適応策を実施出来る箇所は重要度の一つと考えられるので、組み込んで欲しい。

○砂浜の優先順位をつけるのは大変であるが、生物生産面、観光面も重要であるため、重要度の要素として考えていく必要があるのではないか。

(以上)